



第45回 建築士事務所協会 全国大会 開催される

副会長 成田支部 吉岡 一成



令和5年10月13日、第45回建築士事務所全国大会が鳥取・島根の共同で開催された。

建築家の内藤廣氏が「グラントワから考える山陰からの挑戦」として基調講演を行い、その後には大会式典が開かれ、千葉会からは会長以下8名の会員が参加した。式典では年次功労者の表彰があったが、千葉会からは松戸支部の福田氏が受賞者となった。

内藤廣氏設計のグラントワは、会場の米子市から200km程西にある島根県益田市にある、地域のための文化センターであり、筆者は大会の翌々日に見学に行った。屋根だけでなく外壁も地元産の瓦を仕上材として使っており、印象的な外観であった。又、中央にゆったりとした中庭があり、この中庭を囲む廊下にコンサートホールや展示室が連結していた。そのため視線が施設の内外で互に通るため心地よい空間構成となっていた。

式典の中ではアトラクションとして、石見神楽(いわみかぐら)が上演された。石見神楽は日本神話を扱っており、出雲大社がある神話の地にふさわしい演題であった。演題で登場する八岐大蛇は全て演者達の手作りで制作されており、デジタル化の時代でも人の手で文化が継承されている事に感銘を受けた。

日事連建築賞では、千葉会からは(株)かまくらスタジオ一級建築士事務所の「HOUSE F」が奨励賞(小規模建築部門)を受賞した。

